

日商簿記 1 級 過去問攻略講座

【収益認識編①】

【題材】 第 161 回 検定試験（施行日 2022 年 6 月 12 日）

決算整理前残高試算表

（単位：千円）

現金	預金	569,200	買掛金	585,000
売掛金		760,000	契約負債	25,000
仮払法人税等		14,000	短期借入金	50,000
商品		428,000	貸倒引当金	7,000
建物		1,500,000	商品保証引当金	20,000
土地		1,089,900	建物減価償却累計額	300,000
ソフトウェア		135,000	長期借入金	1,000,000
投資有価証券		120,000	退職給付引当金	26,000
関係会社株式		60,000	資本金	1,000,000
繰延税金資産		11,400	資本準備金	200,000
商品売上原価		3,100,000	利益準備金	46,000
役務原価		62,000	繰越利益剰余金	1,189,000
販売費		450,000	商品売上高	4,540,000
一般管理費		838,000	役務収益	214,000
退職給付費用		9,000	受取利息配当金	8,000
支払リース料		48,500	投資有価証券売却益	10,000
支払利息		25,000		
		9,220,000		9,220,000

1. 商品売上高の内訳は、A 商品に係るもの 2,400,000 千円、B 商品に係るもの 1,850,000 千円、C 商品に係るもの 290,000 千円である。

- ① A 商品に係る売上高は、検収基準によって認識している。決算直前の掛け売上高のうち 20,000 千円分（商品原価 15,000 千円）は、顧客において未検収であることが判明したので、商品売上高を取り消すとともに、商品原価を資産に計上する。
- ② B 商品に係る売上高のうち、2 月および 3 月中に計上したものは、それぞれ 100,000 千円および 90,000 千円であった。このうち 10 %に相当する金額は、カスタマー・ロイヤルティ・プログラム（顧客向け販売促進活動）の一環として新たに付与したポイントに配分すべき額である。2 月中に付与したポイントのうち 20 %、3 月中に付与したポイントのうち 50 %は、決算日現在において未使用であった。ポイントの失効はないものとする。
- ③ C 商品に係る売上高のうち、代理人取引によるものが総額で 120,000 千円（商品原価 96,000 千円）含まれていた（すべて決済が完了している）。販売価額と商品原価との差額を役務収益に振り替えるとともに、販売費 18,000 千円を役務原価に振り替える。

【解答すべき金額】

損益計算書 ① 商品売上高 ② 役務収益 ③ 商品売上原価 ④ 役務原価
貸借対照表 ⑤ 商品 ⑥ 契約負債

【解 答】

損益計算書

- | | |
|-----------|--------------|
| ① 商品売上高： | 4,393,500 千円 |
| ② 役務収益： | 238,000 千円 |
| ③ 商品売上原価： | 2,989,000 千円 |
| ④ 役務原価： | 80,000 千円 |

貸借対照表

- | | |
|---------|------------|
| ⑤ 商品： | 443,000 千円 |
| ⑥ 契約負債： | 31,500 千円 |

※ この解答は登川が作成したものであり、主催者である日本商工会議所及び各地商工会議所の公式情報ではありません。